

# 震災伝承におけるこれまでの検討結果

---

# 1) 震災後の現状

東日本大震災は、東北太平洋沿岸域を震源とするM9.0の巨大地震によって引き起こされた大災害であり、約500kmに及ぶ広大な範囲に甚大な被害をもたらし、多くの尊い命が犠牲となった。

この悲劇を繰り返さないために、この**大災害の実情と教訓を末永く後世に引き継ぎ、災害に強い社会を実現していくことが重要である。**

今回の地震は千年に一度と言われる巨大地震であり、末永く後世に伝え引き継ぐためには、地域と連携した、これまでに無い**新たな震災伝承の仕組みが必要**である。

加えて、地域の人口減少が進行しつつある中で、公共の限界を考慮しながら、**長期的な視点に立った防災力を強化する仕組みとする必要がある。**

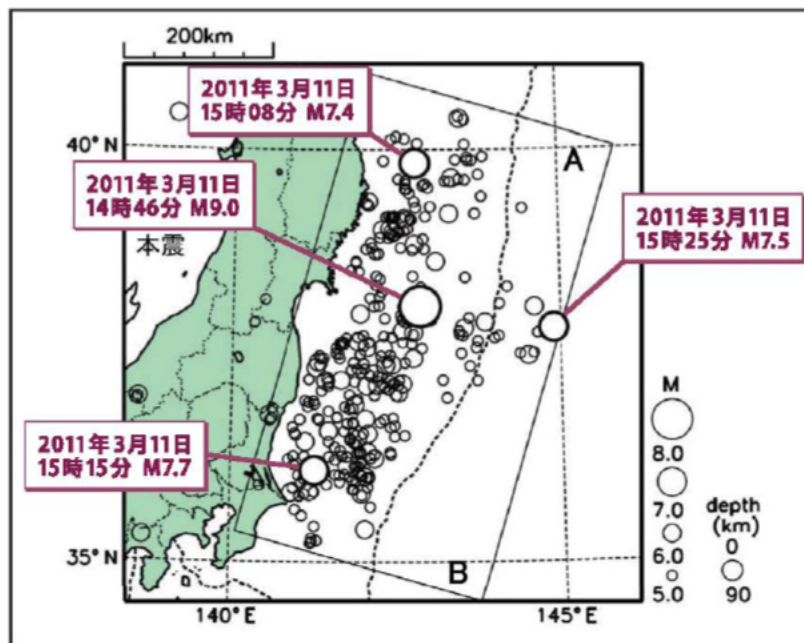
折しも、既に発災から7年が経ち、震災の記憶・記録の風化が危惧される中であって、**効果的・効率的に東日本大震災の実情と教訓を継承(震災伝承)する仕組みを構築することは、世界的にも多発している大規模災害を踏まえると、日本のみならず遍く万国における喫緊の課題**である。

世界の巨大地震ランキング

	年代 発生場所	マグニチュード
1	1960年 チリ地震	M9.5
2	1964年 アラスカ地震	M9.2
3	2004年 スマトラ地震	M9.1
4	1952年 カムチャッカ地震	M9.0
4	2011年 東日本大震災	M9.0

出典：気象庁

本震、余震の震源の分布地図



出典：気象庁

## 2) 震災伝承に取り組む上での課題と対応方針

### 課題

- ① 数百年に一度の規模の災害に備えるためには、インフラ整備では限界があり、個人や民間による取組が必要（国民全体の防災意識の向上が必要）
- ② 行政の取組だけでは、人的資源に限界があり、地域や民間とも協力が必要
- ③ 長期的かつ普遍的な防災教育のためには、震災遺構等の伝承施設を活用することが重要（視覚、聴覚、触覚等の五感で震災の実情や教訓を体感）
- ④ 大規模災害の被災エリアは広大であり、個々による取組ではその実情を総体として表現することが困難であり、被災エリアが連携し、総体として表せる一体な取組が必要
- ⑤ 東日本大震災の被災地は、人口減少が著しい地域であり、震災伝承には地域の活性化に繋げる視点も必要
- ⑥ 国土の守り手である関係機関が震災時に果たした役割を継承し、担い手の確保の取組も必要



### 対応方針

1. 東日本大震災の実情と教訓を末永く後世に伝承を図るためには、産・学・官を含めて東北全体が連携し、一体となって取り組む。
2. 震災伝承をネットワーク化し、活用することにより、効果的・効率的な防災力の強化につなげる。
3. その伝承活動を支える仕組みづくりとあわせて地域活性化に資する取組を行う。



3分野の取組：震災伝承のネットワーク化、地域の防災力の強化、地域活性化

# 3) 震災伝承を支える連携の必要性 (震災伝承ネットワークの意義と価値化)

## ■震災伝承ネットワークの意義

東日本大震災は被災4県を越える500kmの海岸に広範な被害をもたらし、沿岸各地の海岸線や地形によって、津波襲来や被害の様相は大きく異なる。

そのため、これまでの個々の取り組みでは東日本大震災の実情や教訓を総体として伝承することは困難で有り、被災地の復興道路の整備と合わせ、被災4県を中心とした被災地の取り組みをネットワークすることにより、被災の実情が総体として明らかになり、より明確に効果的・効率的な震災伝承が可能となる。

震災伝承のみならず、各地の震災遺構等の伝承施設、あるいは復興の取り組み等を個々の地域の話で完結することなく、“点から線へ”、“線から面へ”と連携し、可視化していくことで、東日本大震災の実情や教訓を総合的・俯瞰的に学べる環境が形成されることになる。

激甚化する災害が多発する中で、歴史的にも防災・減災といった取り組みが培われてきた日本において、被災4県がメッセージを発信することによって、災害を克服する知恵を伝承し、地域の防災力の強化や防災意識の向上のためにも、震災伝承のネットワーク化は緊急的かつ重要な取り組みで有り、被災地の交流促進や地域創生にも寄与すると考えられる。

各地の震災伝承をネットワーク化することで、新たな防災ツーリズムや地域間連携を育み、東北の真の復興(=新たな地域創生)に資する環境づくりを支援する。

震災伝承のネットワークにより、地震・津波の記憶と教訓等を末永く後世に継承できる仕組みづくりが構築されるとともに、東北に新しい価値が創出される。



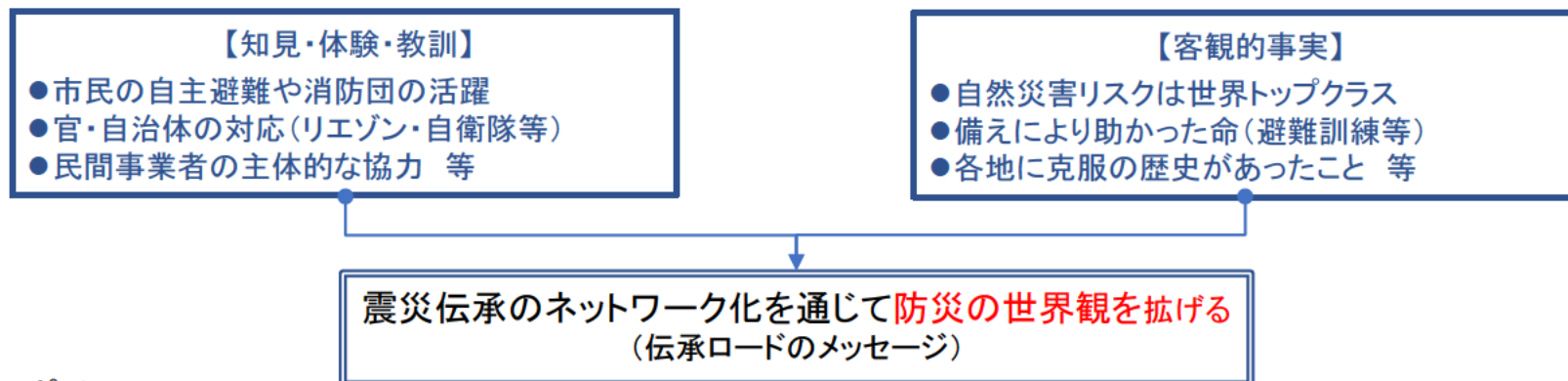
▲震災伝承のネットワーク化のイメージと価値化

# 4) 震災伝承ネットワークにより訴求するメッセージ

## ■ 訴求したいメッセージ

東日本大震災における対応は、未曾有の災害に対して総力戦で立ち向かった東北の防災の歴史でもあります。命がけの救助活動や自主的な避難により大勢の命が救われた事実、あるいは発災直後における東北地整や自治体の迅速な対応や指揮、道路等の啓開作業や復旧活動に主体的に従事した地元事業者等、ここには後世に伝承すべき様々なファクトが存在しています。

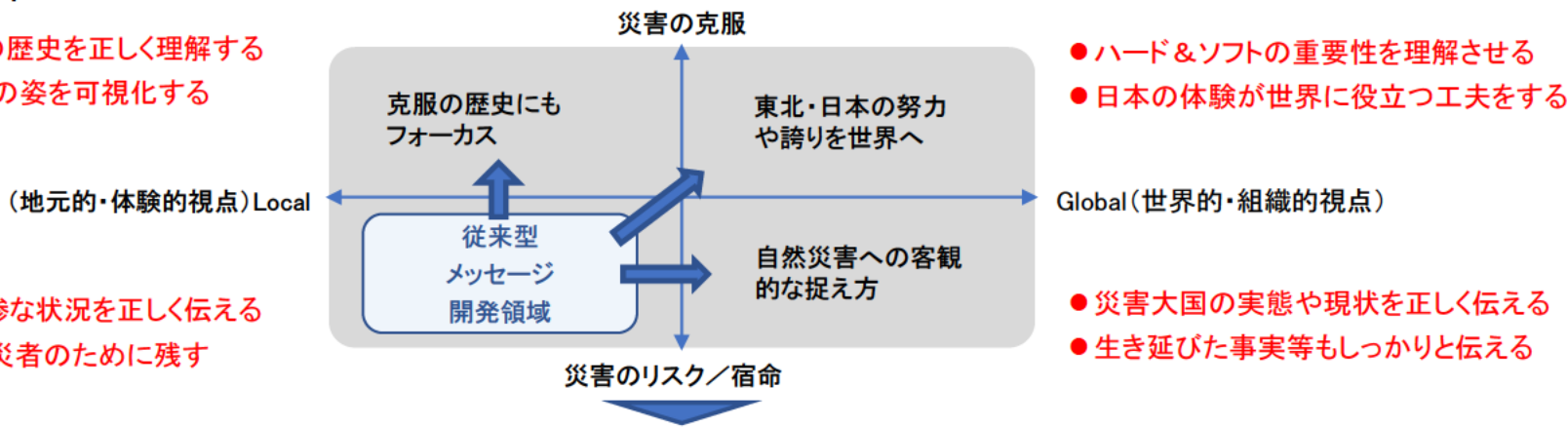
震災伝承ネットワークの形成の狙いは、こうしたコンテンツを可視化することで「新たな備え」に対する意識を風化させないことにあり、「想定外」という言葉が頻繁に使われる今日を鑑みれば、最適な教材になり、また、**新たな防災意識の在り方を再考する契機**となります。災害大国に住む我が国の宿命や過去先人たちが取り組んできた防災の歴史をも視野に入れ、東北は勿論、国内外に対し、**防災意識の世界観を拡げる取組を主たる活動の根幹に据えたい**と考えます。



## ■ 訴求のポイント

- 自分たちのまちの歴史を正しく理解する
- 未来の防災都市の姿を可視化する

- 現地で起きた悲惨な状況を正しく伝える
- 土地の記憶を被災者のために残す



防災意識の世界観を拡げることが、防災力の強化に貢献できる。

## 1. 震災伝承ネットワークの運営 ・伝承ロード形成

### #1 震災伝承施設等の公募・分類・管理

- 各地に整備される震災伝承施設等を対象に幅広く公募をかけて 分類・管理・DB化を行うとともに、各種広報活動を推進する。

### #2 伝承ロードの形成

- 東北エリアに伝承ロードを形成し、新たな人の流れを育む環境づくりを強化する(マップ、サイン等の設置や語り部、ボランティア等の派遣)。

### #3 震災伝承施設における連携事業の推進

- 震災伝承施設の活性化のための戦略事業を関係者と連携して実施を検討、民間や専門家を巻き込んだ各種イベントを検討する。

#### 「震災伝承施設」の公募・分類・管理

震災伝承ネットワーク協議会		イメージ
震災伝承ネットワーク協議会	「震災伝承施設」登録申請関係	
<p>■「震災伝承施設」とは</p> <p>東日本大震災から得られた実情と教訓を伝承する施設をいい、以下のいずれかの項目に該当する施設をいいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①災害の教訓が理解できるもの</li> <li>②災害時の防災に貢献できるもの</li> <li>③災害の恐怖や自然の畏怖を理解できるもの</li> <li>④災害における歴史的・学術的価値があるもの</li> <li>⑤その他(災害の実情や教訓の伝承と認められるもの)</li> </ol>		

### 3.11伝承ロード(仮称)の形成のイメージ

**青森県**

- 八戸市: 津波記念石
- 野田村: 米田歩道橋
- 普代村: 普代水門
- 田名部防潮堤
- 陸前高田市: 下宿定住促進住宅, 気仙中学校
- 奇跡の一本松 ユースホテル, 道の駅 高田松原

**岩手県**

- 気仙沼市: 気仙沼向洋高校
- 石巻市: 門脇小学校
- 南三陸町: 防災対策庁舎
- 女川町: 旧女川文庫

**宮城県**

- 東松島市: 旧野森家
- 石巻市: 震災遺構荒浜小学校
- 石巻南浜津波復興祈念公園

**福島県**

- 山元町: 旧中浜小学校
- いわき市: 井戸沢断崖
- 双葉郡双葉町・浪江町: 福島県における復興祈念公園

①岩手県(陸前高田市) 高田松原津波復興祈念公園

②宮城県(石巻市) 石巻南浜津波復興祈念公園

③福島県(双葉郡双葉町・浪江町) 福島県における復興祈念公園

3.11伝承ロード(仮称)

## 2. 防災プログラムの基盤形成と開発

### #4 震災遺構や技術等のアーカイブ化

- 石碑や慰霊碑、震災遺構などの伝承すべき遺産のアーカイブ化を図るとともに、発災後の啓開や復旧・復興に関する技術のアーカイブ化を図る。



出典: 明治日本の産業革命遺産HP



出典: 国土交通省 東北地方整備局HP 震災伝承館

### #5 地域の防災力強化のための教育プログラムの提供 (学校、自治体、企業等向け)

- 伝承ロードを活用し、震災遺構等の伝承施設を視察や体験学習等を基軸とした青少年のための防災教育プログラムを開発し、修学旅行や校外学習等で利活用を図る。また、国や自治体、企業等の防災担当者向けの研修や有事の際のリーダー育成等に関わるプログラムを開発提供する。



出典: 東日本大震災・原子カーアーカイブ拠点施設基本構想



出典: せんだい3.11メモリアル交流館HP

### #6 官民連携における復旧活動の可視化

- 発災以降、自身の命も顧みずに救助や復旧に立ち向かった消防団や建設業界の取り組みを後世に伝承するとともに、官民連携の貴重なファクトを可視化する。



出典: 震災津波伝承施設展示等基本計画



出典: 震災津波伝承施設展示等基本計画

## 3. 復興に向けた地方創生・地元支援

### #7 地方活性化コンサルティング事業

- 震災伝承施設や各地の地域資源・資産を活用して交流人口や観光活性に資するこれからの地域づくりの在り方についてコンサルティング業務等を推進する。



イメージ

出典: 東日本大震災・原子力カーケア拠点施設基本構想



イメージ

地域活性化協議会  
(提供: 東北地方整備局 東北国営公園事務所)

### #8 一般向けツーリズムの ツアー化企画

- 旅行代理店と連携を図り、各地の伝承施設と地域資産・資源を有機的に結びつけた一般生活者・観光者向けの防災ツーリズムの在り方を検討し具現化する。



出典: 三陸ジオパークHP



イメージ

石巻ウォーキングバスツアー2018  
(提供: 東北地方整備局 東北国営公園事務所)

### #9 国内カンファレンス、 国際会議等の開催

- 東北エリアの復興の姿を国内外に強く情報発信することに加え、防災関連の大規模なカンファレンス事業や各種交流イベントを東北エリア各地で開催する。



イメージ

出典: 世界防災フォーラム@仙台2017 実行委員会HP



イメージ

出典: 世界防災フォーラム@仙台2017 実行委員会HP